

山形大は、県内の女子中高生の科学への興味関心を高める活動に力を入れる。新たに科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受け、女性研究者らによる出前講座などを開催。理工系分野で女性の活躍が全国的な課題となる中、全体の約2割という理系女子学生の増加を目指す。

理工系女子増加に力

山形大のプログラム採択

同大男女共同参画推進「ト」と題し、2年間にわたって年間最大300

5月1日現在、全学部

女子学生の割合は35・9

%で、理学部は26・3%

工学部は14・7%と他学

部よりも低い。19年度末

女性研究者ら 出前講座や進路講話

現在の女性教員の割合も

全体で15・4%にとどま

っており、理学部は4・

1%、工学部は6・2%

とさらに少ない。

採択されたプログラム

は「ヤマガタ 夢☆未来

Girlsプロジェクト

研究者・大学院生と交流できるイベントを開催。県内の中学1年生を対象に、女性が活躍している理工系の職業や職場を紹介するパンフレットの配布も行う。

担当の井上栄子准教授

（男女共同参画推進室）

は「山形大の女性研究者、

学生らのネットワークを

生かしながら理工系女子

の裾野を広げていきたく

い、同じく栗山恭直教

授（有機化学・光化学）

は「講師を務める大学院

生らが自らの将来を考え

る機会にもしていきたい

と話している。

（近岡国史）

さらに男女共同参画センターと連携し、中高生とその保護者が女性研